

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎 人間と生活

【科目】 総合基礎 I (コミュニケーション演習)

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	中村 真通	
単位数	1 単位		実務経験	大学非常勤講師・公認心理師
		授業形態・回数	講義	8回

【授業情報】

授業概要	<p>社会に出てからの対人関係を円滑にするコミュニケーション能力を習得することを目標とします。言語運用能力とプレゼンテーション力を高めることにより、社会人・医療人として求められるコミュニケーション能力を身につけましょう。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<p>本科目では、コミュニケーションをとる上での基本的な理論・方法論を学び、授業への積極的な参加を通してコミュニケーション能力を高めていくこととなります。また、鍼灸臨床で求められる医療面接の基礎についても学びます。</p>

【担当教員から】

教科書	プリント配布
参考書	小玉正博・松井豊編 中村真通、他著『生涯発達の中のカウンセリングⅣ』（サイエンス社、2014）
成績評価基準	<p>授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用 授業毎課題（80%）・レポート（20%）</p>
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法</p>
授業時間外必要な学修	講義後は、教科書、講義で配布される資料を用いて演習・復習を行うこと。演習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。
履修にあたっての留意点	

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	大饗 里香	
単位数	1 単位			
		授業形態・回数	講義	8回

【授業情報】

授業概要	英語の基礎を復習しながら鍼灸マッサージの現場で役立つ英単語や表現を覚え、実践的に使えることを目指す 教材『鍼灸マッサージ師のための英会話ハンドブック』（医道の日本社）や配布資料、パワーポイント、動画などを使用
授業の一般目標 (GIO)	具体的には (1) 中highで学んだ学科としての英語と、今学べきコミュニケーションツールとして実際に使える英語の違いを理解 (2) 英語の基礎を復習できる会話演習 (3) 東洋医療サービスの現場で使える会話演習 (4) 外国人に施術を行う際に留意することの理解

【担当教員から】

教科書	『鍼灸マッサージ師のための英会話ハンドブック』（医道の日本社）
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用 学びや気付きの講義レポート提出、及び小テストにて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	教科書、プリント、ノートなどをもとに予習・復習・試験勉強を行うこと
履修にあたっての留意点	授業中の参加態度を重視。授業内容はシラバスに限定せず、適宜柔軟に対応する。

【科目】 総合基礎 I (生命科学)

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	岡崎 弘幸	
単位数	2 単位		実務経験	高校教諭 (生物) ・ 大学非常勤講師 元NHK高校講座講師
		授業形態・回数	VOD	15回

【授業情報】

授業概要	将来、医療道へ進むにあたり、ヒトの体を生物学的視点から見るときの基礎を学ぶ（動物学一般の内容も含む）。その中で、特にヒトの体を構成する細胞、骨格と筋肉収縮、神経系と行動、恒常性の維持（血液や内分泌系）、生体防御、人間生活を取り巻く環境などを中心に学習する。
授業の一般目標 (GIO)	ヒトの体の構造やヒトの体のさまざまな生命現象に興味や関心を持ち、常に疑問を抱きながらその解決に向けて探究心を高める。また基本的な概念や原理・法則などを系統的に理解し、他の授業とも関連させることができる。具体的には現代生物学の基礎となる細胞や代謝、健康にかかわる恒常性の維持、ヒトと環境の関係にかかわる生態系などの内容を理解し説明できる。

【担当教員から】

教科書	オンデマンドで配布する資料等（教科書は設定しない）
参考書	「解剖生理」（医療薬出版）、「高校生物基礎」・「生物」の教科書や生物図説
成績評価基準	成績評価基準 毎授業の課題の評価提出を持って、最終成績とする。
成績評価方法	学業成績は、毎授業の課題における総合成績で評価する。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	講義内容は復習し、興味を持ったことは積極的に調べてください。
履修にあたっての留意点	オンデマンドは2倍速で聞くと重要事項を聞き漏らすことがあります（注意）。毎講義後、簡単な確認試験を行います。



【科目】 総合基礎 I (健康と運動)

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	春日井 有輝	
単位数	1 単位		実務経験	大学非常勤講師
		授業形態・回数	VOD	8回

【授業情報】

授業概要	運動を行うと様々な傷害や疾病が発生することがある。その一方、疾病の治療や健康増進のために運動が取り入れられることも多い。このように、運動と健康や医療には密接な関係がある。将来医療の専門家になる学生が運動・スポーツに関心を持ち、基礎的な知識を身につけるよう授業を行う。
授業の一般目標 (GIO)	本講義では、運動と健康の関わりや運動を含めたコンディショニング、スポーツ現場における医療従事者の役割について概説し、その中で解剖学や生理学、運動学などの理解を深めることを目指す。

【担当教員から】

教科書	なし (オンデマンド形式で実施)
参考書	・リファレンスブック, 日本スポーツ協会 ・アスレティックトレーナー専門科目テキスト1~6, 日本スポーツ協会
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得、知識の習熟度と修得した知識の応用 成績評価基準 毎授業の課題の評価提出を持って、最終成績とする。
成績評価方法	学業成績の評価は、各回のレポートの内容や履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数におけるレポート提出回数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満
授業時間外に必要な学修	授業後に復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎 人間と生活

【科目】 総合基礎 I (コミュニケーション心理学)

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	津野田 聡子	
単位数	2 単位			
		授業形態・回数	VOD	15回

【授業情報】

授業概要	心理学の基礎的な知見を習得することで心の問題に関する科学的視点を養い、深い人間理解を目指す。
授業の一般目標 (GIO)	コミュニケーションと、それに関わる諸問題を理解した上で、実習をまじえコミュニケーション・スキルの獲得、上達を目指す。

【担当教員から】

教科書	必要に応じてプリントの配布、資料の提示などを行う。
参考書	参考書に関しては必要に応じて指示する。
成績評価基準	成績評価基準 毎授業の課題の評価提出を持って、最終成績とする。
成績評価方法	学業成績は、毎授業の課題における総合成績で評価する。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満 成績評価の基準と算定方法
履修にあたっての留意点	課題の評価を合計して60%以上で履修とする。 、本科目の単位履修には授業の60%以上の出席が必要です。提出期限内の課題の提出を持って出席とみなし、提出期限を過ぎた場合には欠席となります。 提出期限内での提出をしっかりと行い、授業の出欠には充分注意してください。

【科目】 総合基礎 I (実践国語)

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	吉崎 正恒	
単位数	1 単位		実務経験	高校教諭 (国語)
		授業形態・回数	VOD	8回

【授業情報】

授業概要	漢字の学習、作文の書き方、文章読解の方法などを総合的に学習する。教材はすべてプリントを配付し、それをもって講義を行う。
授業の一般目標 (GIO)	これから、さまざまな講義を受けるための読解能力、将来、仕事に就いたときの一般教養など、さまざまな観点から日本語について学ぶ。

【担当教員から】

教科書	
参考書	『パスポート』 (桐原書店) 『常用漢字アルファ』 (桐原書店) ただし、購入の必要なし。すべてプリントを配付する
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用
成績評価方法	学業成績の評価は、漢字の理解、作文の理解などを中心に試験の成績、履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	配付したプリントの復習
履修にあたっての留意点	将来必要な日本語の知識を習得する気持ちが必要

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎 人間と生活

【科目】 総合基礎 I (身体動作の基礎)

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	春日井 有輝	
単位数	1 単位		実務経験	大学非常勤講師
		授業形態・回数	VOD	8回

【授業情報】

授業概要	<p>人体には多くの骨が存在し、そこに靭帯や筋をはじめとした軟部組織が付着し支えることで、身体を形作っている。軟部組織の張力のバランスによって姿勢が変化し、また筋を収縮させることで能動的に運動することもできる。</p> <p>本授業では姿勢や動作の評価、および問題があった場合の介入方法としてストレッチングと筋力トレーニングについて学習する。また、より理解を深めるために、運動器の構造についても学習する。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<p>本授業では、運動器の構造の理解を深めること、姿勢や動作を評価するポイントを理解すること、姿勢や動作を改善する手法としてストレッチングと筋力トレーニングの基礎を理解することを目標とする。</p>
行動目標	

【担当教員から】

教科書	なし (オンデマンド形式で実施)
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第3版, 坂井 建雄, 医学書院 ・アスレティックトレーナー専門科目テキスト2~4&6, 日本スポーツ協会 ・アスレティックトレーニング学, 広瀬統一ら, 文光堂
成績評価基準	<p>授業の理解度 基本的知識の修得、知識の習熟度と修得した知識の応用</p> <p>成績評価基準 毎授業の課題の評価提出を持って、最終成績とする。</p>
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、各回のレポートの内容や履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数におけるレポート提出回数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満</p>
授業時間外に必要な学修	授業後に復習を行うこと

科目名	こころの科学 (T)		
サブタイトル			
対象学科	人間科学部 心身健康科学科		
担当教員	鮫島有理		
担当教員の 実務経験			
オフィスアワー	火曜日～金曜日10:00～17:00：Zoom面談の時間を調整することができます。事前にUHASマイキャンパスからご連絡いただき、お約束確定後に、URLを送ります。 水曜日10:00～14:00：蓮田キャンパス本館2階ラウンジにて対面での面談の時間を調整することができます。事前にUHASマイキャンパスからご連絡いただいております。お約束しましょう。 ご質問のある場合はまずはご連絡ください。		
配当年次	1-4	選択	単位数 テキスト履修：2単位
アクティブラーニング			
資格等 関連科目	【5910T】あはき師・柔道整復師養成カリキュラム		
科目コード	5910T(科目等履修生)		
科目区分	統合I (こころとからだのつながり)		
テキストの変更 ・改訂	2020年度より変更・改訂：あり		
使用教材	教科書	『史上最強カラー図解 プロが教える心理学のすべてがわかる本』、大井晴策 (監修)、ナツメ社、2012年	
	参考書等	『人間科学概論 第3版』、佐藤昭夫・佐藤優子 (著)、人間総合科学大学、2010年 『かがやく生き方 心身健康科学 第3版』、久住眞理・久住武 (監修)、人間総合科学大学、2020年	
授業概要 (目的・ねらい)	心理学とは、人間のこころの機能や行動を科学的に解明する学問であり、「こころ・からだ・文化」の側面から人間を総合的に理解するために欠くことのできない領域です。本科目では、人間の社会生活との接点から、心理学についての理解を深め、人々が心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に心理学を応用する方法について学びます。さらに、「自立と共生」「創造性と人間性」を基礎に、日常および医療現場で役立つコミュニケーション力を養います。		
キーワード	心理学／心身健康科学／人間関係／個人／社会／コミュニケーション／脳と心		
テキストの内容 及びアドバイス	1. こころの歴史 心理学の歴史と今後の発展について学ぶ 2. 脳と知覚のメカニズム 脳の構造と心のはたらき (視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚) について学ぶ 3. 学習と思考のメカニズム より高度で複雑な心のはたらき (学習、記憶、思考、知能) について学ぶ 4. 心理学における性格 性格の定義や性格を知るためのアプローチおよび他者とのコミュニケーションについて学ぶ 5. 対人関係の心理学 社会心理学の立場から、個人レベルから社会レベルにおける人間の行動および他者とのコミュニケーションについて学ぶ 6. 人間の発達 発達心理学の立場から、発達段階に応じた特徴と心のはたらきについて学ぶ 7. 心の健康と心理療法 心の健康に関する諸側面と様々な心理療法とともに他者とのコミュニケーションのあり方について学ぶ		
一般目標 (GIO)	心理学にもとづく客観的な視点で自分を捉えるとともに、他者との関係構築について理解を深め、日常生活や医療現場におけるコミュニケーションの回り方を考えることができる。		

行動目標 到達目標 (SBOs)	1. 心理学を科学の一分野として説明することができる 2. よりよいコミュニケーションについて、心理学に基づいて説明することができる 3. よりよいコミュニケーションの基盤として、こころ・からだ・文化の側面から人間を総合的に理解することができる 4. 自分および他者とのよりよいコミュニケーションのために、心理学を応用する方法を説明することができる 5. 人々が心身ともに健康で豊かに暮らせる社会の構築に心理学を応用する方法を説明することができる	
ディプロマポリシー との関連	大学	
	学部	
	学科	
カリキュラムポリシー との関連	大学	
	学部	
	学科	
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 評価は「科目修了試験」（100%）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。ただし、「テキスト課題」に合格（60点以上）した者が、「科目修了試験」を受験できる。	
課題に対する フィードバック の方法	テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示してフィードバックする。	
授業評価アンケートに基づく改善点		
方略	テキスト課題をもとに、関連するテキストの該当箇所を丁寧に精読してください。	
連絡事項	本科目を「心理学」としてのみ捉えるのではなく、よりよい自己理解および日常生活の中で営まれる自分と他者の関係理解につなげ、テキスト履修を成長のきっかけにしてください。	

科目名	生命倫理学		
サブタイトル			
対象学科	人間科学部 心身健康科学科		
担当教員	吉田浩子		
担当教員の 実務経験			
オフィスアワー	原則として毎週火曜日9時-16時となります。まずはUHAS「質問」のタブから担当教員にメールでご連絡ください。オンライン、電話、対面でのやりとりには事前予約が必要で、予約は先着順となります。		
配当年次	1-4	選択	単位数
アクティブラーニング			
資格等 関連科目	【5914T】あはき師・柔道整復師養成カリキュラム		
科目コード	5914T (科目等履修生)		
科目区分	統合Ⅳ (人間の未来学)		
テキストの変更 ・改訂	2021年度からの変更・改訂： なし		
使用教材	教科書	青木清『生命倫理学』（本学オリジナルテキスト）、「生命倫理学 別冊」	
	参考書等	「いのちをつくっていいですか」島園進 NHK出版 2016	
授業概要 (目的・ねらい)	現在、新しい生命科学の進歩に伴って開発された技術が医学薬学医療に応用される一方、それら科学技術と医療技術の進歩は私たち人間の生存に対してさまざまな問題を提起している。これらの問題に対して、生命倫理（バイオエシックス）の果たす役割は大きい。その根本にある、生命科学の時代の基本的な考え方は、人間の尊厳や生命の尊厳と、人間の生存を守ることにある。生命科学が21世紀に大きく発展して、健全な発展により人間の生存を守ることで大きな力となるかどうかは、人々が生命倫理の知識を教養として持っているかどうかにかかっているだろう。特に、近年、脳死臓器移植、ヒト・ゲノム研究、遺伝子治療、再生医学医療などについての議論がなされている。その生命倫理的な問題を具体的に考察し、環境倫理といった分野までを学ぶ。		
キーワード	バイオエシックス / DNA / インフォームド・コンセント / 倫理的基準 / ヒトクローン / iPS細胞 / ES細胞 / バイオテクノロジー		
テキストの内容 及びアドバイス	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の生存とバイオエシックス 2. 生命倫理に関する諸問題 3. ヒト・ゲノム研究 4. 脳死と臓器移植 5. 医療における論理—患者の自己決定権とは— 6. 出生に関する倫理 7. 遺伝子治療 8. 安楽死と尊厳死 9. 人間の生存を考える 10. 環境倫理 		
一般目標 (GIO)	生命倫理の基礎を学修する		
行動目標 到達目標 (SBOs)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命倫理の課題が説明できる 2. 先端医学医療について説明できる 3. 先端的生物医学について説明できる 4. 生命科学の基礎について説明できる 5. 技術の進歩と自然について（人間と他の生物との共生）説明できる 6. 生命倫理と医療倫理の関連について説明できる 7. 生殖補助医療について説明できる 8. 終末期医療について説明できる 		
ディプロマポリシー との関連	大学		
	学部		
	学科		

カリキュラムポリシーとの関連	大学			
	学部			
	学科			
評価方法・基準	<p>評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。</p> <p>【テキスト履修】 評価は「科目修了試験」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。ただし、「テキスト課題」に合格（60点以上）した者が、「科目修了試験」を受験できる。</p> <p>【インターネット履修】 評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 評価は「最終レポート」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。</p> <p>最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定文字数に従っているか。過不足がないか。 ・ 誤字、脱字がないか。 ・ 出題内容の問い、趣旨に答えているか。 ・ 文章が論理的か ・ 専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・ 常体（『である』調）で記述されているか。 ・ 他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。 			
課題に対するフィードバックの方法	<p>T: テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示 S: 提出された課題について、必要時、個別にフィードバックを行う</p>			
スクーリング履修での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1-3 時限	21世紀の生命科学の全体像を理解し、その進歩に伴う生命倫理の諸問題を学修する。	バイオエシックス、DNA	
	4-6 時限	先端医療技術と生命倫理の様々な問題を解説し、患者に対するインフォームド・コンセントや、患者の自己決定権について考える。	ES細胞、iPS細胞	
7-8 時限	人間の生存の問題に触れ、生命科学が人類の未来に果たす役割とその貢献について考え、学ぶ。	バイオテクノロジー、ヒトゲノム		
授業評価アンケートに基づく改善点	授業評価にご協力ください。個別の質問等はUHAS「質問する」からお問い合わせください。			
方略	テキストとメディアを用いて学習を進める			
連絡事項	<p>テキストには、生命倫理学を学修するにあたっての基礎となる資料として「ヒポクラテスの誓い」「ニュールンベルク綱領」「ヘルシンキ宣言―患者の権利章典―」「ジュネーブ宣言」「リスボン宣言」「国際看護師倫理綱領」が付されています。別冊を含め、活用してください。</p> <p>メディア授業を担当している青木清は我が国における「生命倫理」「生命科学」と呼ばれる学問分野の創設者のひとりですが、最先端の事項は変化が急速でテキスト等で扱うことが常に困難です。すでに遺伝子組み換えにより作出された豚の心臓がヒトに移植される時代です。最先端の事象に興味のある方はご自身で調べ、質問等があれば直接吉田までメールでお問い合わせください。ただし、個人的あるいは特定のケースのご相談に応じることはできないので、あらかじめご了承ください。</p>			

科目名	プレゼンテーション論(T)			
サブタイトル				
対象学科	人間科学部 心身健康科学科			
担当教員	鍵谷方子(科目責任者)・矢島孔明			
担当教員の 実務経験				
オフィスアワー	<p>担当教員のオフィスアワーは以下に従います。</p> <p>矢島孔明：火曜日 16:30-17:30、木曜日 12:00-13:00 オンラインあるいは本館2階コミュニケーションラウンジ</p> <p>UHAS@Myキャンパスより随時、質問や面接日時の予約申し込み・調整ができます。</p> <p>藤原宏子：火曜日 13:00-17:00、オンライン・蓮田キャンパス、予約はUHAS@Myキャンパスより申込ください。</p> <p>鍵谷方子：金曜日13時～17時、オンラインまたは蓮田キャンパス、UHAS@My キャンパスよりお申込み予約ください。</p>			
配当年次	1-4	選択	単位数	テキスト履修：1単位
アクティブラーニング				
資格等 関連科目	【5921T】 あはき師・柔道整復師養成カリキュラム			
科目コード	5921T(科目等履修生)			
科目区分	統合Ⅲ (文化・社会の継承)			
テキストの変更 ・改訂	2020年度からの変更・改訂： なし			
使用教材	教科書	久住真理監修『プレゼンテーション論 ～できる！はじめての研究発表～』人間総合科学大学		
	参考書等	酒井聡樹著『これから学会発表する若者のために』共立出版 酒井聡樹著『これから論文を書く若者のために』共立出版		
授業概要 (目的・ねらい)	<p>人類が築いてきた高度な文明の基礎の1つに言語をはじめとする様々な情報伝達手段の発展がある。プレゼンテーションは、そうした情報伝達の1つの形態である。本科目は、これから学会発表をする学生のための入門講座としてだけでなく、職業人、社会人にとってのプレゼンテーション全般に役立つ基本的事項を学ぶことを目的とする。具体的には、学会発表の心構えや基本事項、発表内容の精査、伝わりやすく見やすいポスターやスライドの作成、発表本番での論理展開、質疑応答への対応について学び、レポート報告、学会発表に関するプレゼンテーションの基本事項を実践できるようにする。</p>			
キーワード	プレゼンテーション/研究発表/口頭発表/スライド/ポスター発表/コミュニケーション			
テキストの内容 及びアドバイス	<p>【テキストの内容】</p> <p>Step1 はじめての研究発表 研究発表の場を知り、その場に参加する心得を学ぶ。その前提として、研究に取り組むうえで備えておきたい知識、考え方、姿勢を理解する。⇒目標 1、4、5</p> <p>Step2 発表内容の準備 研究内容について発表内容を精査し、論旨を整え表現する際に重要な考え方や基本事項を学ぶ。⇒目標 2、4</p> <p>Step3 スライドを用いた口頭発表の技術 聴衆に発表内容を伝えるためのツールとしてのスライド作成の考え方を理解し、相手に伝わるスライドを用いた口頭発表技術のポイントを把握する。⇒目標 2、3、4</p> <p>Step4 ポスター発表の技術 読みやすく理解しやすいポスターの作り方、ポスター発表の仕方など、実際にポスター発表を行う際の心構え、技術、留意点について学ぶ。⇒目標 3、4、5</p> <p>Step5 内容をより良く伝えるために より良く聴衆に伝えるためには、伝える内容の整理が必要となる。その整理の仕方について、実践のための考え方を学ぶ。⇒目標 2</p> <p>【アドバイス】</p> <p>テキストでは、学会発表を題材にプレゼンテーションの基礎的事項が具体例とともに説明されています。具体例から、実際にご自身が発表をする場合にはどのようにプレゼンテーションできるか、学んだことをどのように適用・応用できるか、についても考えながらテキストの学修を進めていくと、より理解が深まり、達成目標に到達しやすくなるでしょう。</p>			

一般目標 (GIO)	自らの思考・選択・判断の過程を科学的に説明し伝達する基礎力を養うために、学会発表を題材にしてプレゼンテーションの方法について学ぶ。	
行動目標 到達目標 (SBOs)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学会発表の心構えや基本事項を説明できる。 2. 発表内容、すなわち序論、方法、結果、考察、結論の各パートで、簡潔に何を伝えるべきかについて精査し、プレゼンテーションの設計をすることができる。 3. プレゼン技術のポイントとなる、わかりやすいポスターやスライドを作ることができる。 4. 発表本番で、ポスターやスライドを使って研究内容を明確な論理展開で説明することができる。 5. 質疑応答の際に、質問者の意図を的確に理解し、簡潔に答えることができる。 	
ディプロマポリシー との関連	大学	
	学部	
	学科	
カリキュラムポリシー との関連	大学	
	学部	
	学科	
評価方法・基準	<p>評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。</p> <p>評価は「科目修了試験」(100%)で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。ただし、「テキスト課題」に合格(60点以上)した者が、「科目修了試験」を受験できる。</p>	
課題に対する フィードバック の方法	テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示	
授業評価アンケートに基づく改善点	<p>授業評価アンケートにて、質問に対する対応により評価をいただいております。引き続き継続的に適切に対応するよう努めてまいります。テキスト履修を進める中で抱かれた疑問や関心を担当教員に質問することは、科目内容の理解や深化に大きく役立つことと思います。積極的にマイキャンパスの「質問」をご活用いただければと思います。</p>	
方略	テキストを熟読して重要ポイントを理解する。その上で学んだ知識をもとに具体的に実践する。	
連絡事項		